

# 令和5年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日	令和6年3月29日
法人名	学校法人 永原学園
園名	西九州大学附属 三光幼稚園

## ま と め

**全体平均 3.33**

<p><b>第2章 第3節</b></p> <p>満1歳以上満3歳児未満の園児の保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの伝えたい思いを受け止め、言葉にしたり、単語を教えていった。</li> <li>・発達に応じて、色々な動きに挑戦できるように関わった。</li> <li>・遊びの中でやってみようと思うことが出来るように誘い、色々な感覚を体験できるように心掛けた。</li> <li>・ボタン掛けやチャックの開閉など、できないところを援助し、少しずつできるように援助の工夫をしている。</li> <li>・保育者の言葉や友達が言っていることが分かるように、ゆっくりと話すことを心掛けた。</li> <li>・一緒に歌ったり、体を動かしたりして楽しい時間を共有した。</li> <li>・子どもたちの玩具での遊び方などに気を配りながら玩具配置を考えたり、発達状況により玩具の内容を変更したりした。</li> </ul>
<p><b>第2章 第4節</b></p> <p>満3歳児以上の園児の教育及び保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心が広がるように日頃の保育から心掛け、そこから活動につながるように心掛けた。</li> <li>・運動遊びで体を伸び伸びと動かして遊びを楽しめるよう、環境を準備したり、働きかけたりして共に遊んだ。</li> <li>・行事の由来など、絵本などを使って伝えるように心掛けた。</li> <li>・子どもが興味をもった虫や草花について一緒に調べたり、詳しい人に聞いたりして周りの子も親しみをもてるように関わった。</li> <li>・植栽をしたり、水やり等の世話をして植物の生長を観察し、命の大切さに気付けるようにしている。</li> <li>・全体に話す時は子どもたちに考えさせるように問いかけ、友達の話にも耳を傾けるよう挙手してから話すように促してきた。</li> <li>・得意なことなど、みんなの前で伝えたりしながら友達の良さを伝えている。</li> <li>・何のためにルールがあり、なぜ守ることが大切なのか問題が起こるたびに子どもたちと共に考えてきた。</li> <li>・必要な言葉は繰り返し伝え、生活に必要な言葉がわかるようにする。</li> <li>・廃材製作や積み木などでの表現活動では、子どもの思いを作品から聞きとり、共感していくように努めた。</li> </ul>
<p><b>第2章 第5章</b></p> <p>教育及び保育の実践に関わる配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の連携をしっかりとることに努める。</li> <li>・子どもが様々なものを感じとるような環境作りに努め、心の健康にも気付いていく。</li> <li>・子どもの変化に気付けるよう、一人一人をよく観察し、保護者にも伝え連携できるように心掛けた。</li> <li>・月年齢による成長の差を把握し、関わるよう心掛けた。</li> <li>・その子に合わせて活動の過程を調整し、個別に対応して進めていけるよう、担任同士話をしながら進めていった。</li> <li>・温かいスキンシップを心掛け、安心して行動できるようにする。</li> </ul>
<p><b>第3章</b></p> <p>健康及び安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと会話しながらも、常に様子を観察している。</li> <li>・定期的に点検するなどして、適切な環境維持に努めている。</li> <li>・怪我等が発生した際、同じ事故が起こらないよう記録し、全職員が共通理解するように努めている。</li> <li>・園内、運動場など遊びながらも子ども目線で見られるように心掛け、破損や危険な状態の物はすぐに修繕したり、改善・報告して、園児が毎日安全に過ごせるようにした。</li> <li>・食物アレルギーをもつ子どものおやつの確認に関しては、必ず給食の先生とのチェック及び2人以上の職員間でのチェックを行い、食べるテーブルの隔離にも努めた。</li> </ul>
<p><b>第4章</b></p> <p>子育ての支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の保護者の思いを受けとめ、保護者が安心できるような雰囲気作りを心掛けている。</li> <li>・保護者にも子どもの成長と一緒に喜べるよう、個々の成長を常時伝えるように努めている。</li> <li>・保護者へ挨拶をする際、子どもの様子などを一言添えるように心掛けている。</li> <li>・子どもの育ちをクラス便りで発信したり、連絡帳で伝えたりして、園と家庭とのつながりを大事にできるように努めている。</li> <li>・子ども達の生活環境を知り、子どもたちが園でも安心して生活できるように配慮した。</li> <li>・知り得た事柄の秘密保持については、常に念頭に置いている。</li> </ul>
<p><b>第5章</b></p> <p>職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修を通し、学んだことを日頃の保育に発揮できるように努力している。</li> <li>・資質向上の為に学ぶ気持ちを大切に、研修にも参加するようにしている。</li> <li>・かかわりのある子どもたちの気になる点について、同僚と話をしたり情報交換をしている。</li> <li>・保育を振り返って反省し、次に生かせるように改善することができるようPDCAサイクルを意識して行うことができた。</li> </ul>
<p>総合</p>	<p>・園児が多いため、担任及び全職員で子ども達を見守り、全ての園児が最善の利益を享受できるように努めている。そのためには、アクシデントを素早く職員間で共有したり、個々の成長や課題を語り合い、日々の保育につないでいけるようにしている。ICTの導入で、ホームページ以外にも園児の保護者と担任が写真やコメントを通して情報を共有し、子育ての支援につながるよう努めている。職員の自己評価の結果からは、そのことに真摯に努力している姿が見られた。</p>

### データ表

### データグラフ

内容	項目数	平均
「3歳未満児保育」	32	3.29
「3歳以上児保育」	30	3.70
「教育保育の配慮事項」	16	3.38
「健康・安全」	29	3.67
「子育て支援」	18	3.04
「職員の資質向上」	9	2.87
計	134	3.33

